



2023年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年3月7日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東
 コード番号 2929 URL <https://www.pharmafoods.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祚
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部部长 (氏名) 河中 敏弘 TEL 075-394-8600
 四半期報告書提出予定日 2023年3月17日 配当支払開始予定日 2023年4月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年7月期第2四半期の連結業績（2022年8月1日～2023年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年7月期第2四半期	35,143	21.9	△883	—	△912	—	△914	—
2022年7月期第2四半期	28,821	41.3	2,032	—	2,105	—	1,561	—

(注) 包括利益 2023年7月期第2四半期 △816百万円 (—%) 2022年7月期第2四半期 1,502百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年7月期第2四半期	△31.62	—
2022年7月期第2四半期	53.86	53.85

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年7月期第2四半期	33,875	5,752	17.0
2022年7月期	31,159	7,074	22.7

(参考) 自己資本 2023年7月期第2四半期 5,750百万円 2022年7月期 7,071百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年7月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2023年7月期	—	10.00	—	—	—
2023年7月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年7月期の連結業績予想（2022年8月1日～2023年7月31日）

当社グループは、自社ブランド商品の販売開始、広告の質・量の大胆な見直し等に取り組んでおり、これらの取り組みによる当社の連結業績への影響は、下半期から具現化してくることが見込まれます。2023年7月期の通期の連結業績予想につきましては、現在精査を行っており、2022年9月6日に発表しました業績予想値から大きな変更が生じる場合は、速やかに開示いたします。

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	71,000	18.0	1,191	10.3	1,268	0.3	886	—	30.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年7月期2Q	29,074,500株	2022年7月期	29,073,800株
② 期末自己株式数	2023年7月期2Q	233,970株	2022年7月期	52,483株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年7月期2Q	28,908,838株	2022年7月期2Q	28,996,582株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）結業績予想などの将来予測情報に関する説明を」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

第2四半期決算補足説明資料は、2023年3月24日に当社WEBサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「100歳時代に価値ある豊かさと価値ある健康を」というサステナビリティビジョンを掲げ、人々の持続可能な健康的で幸せな社会の実現を目指しております。

その実現に向け、食品、化粧品、医薬品の開発を科学的根拠に基づいて行い、独自の研究成果及び製品を「BtoB事業」「BtoC事業」「バイオメディカル事業」の3事業において広く社会に提供しております。

なお、当社は2022年5月13日付で(株)PF Capitalの株式を取得し子会社化し(2022年6月30日付でみなし取得)、2022年5月25日付でオンキヨー(株)の株式を取得し持分法を適用(2022年6月30日付でみなし取得)しているため、第1四半期連結会計期間より、(株)PF Capital及びオンキヨー(株)の業績が含まれております。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のためのワクチン接種が進み、徐々に経済活動の回復の兆しが見えてきているものの、日米の金利差拡大、ロシアによるウクライナ侵攻を背景とした原油・原材料の高騰及び円安など、先行き不透明な状況が続いております。

一方、このような生活様式の急速な変化にも関わらず、消費者の医療、健康及び美容に対するニーズは引続き継続しております。

こうしたニーズに応えるべく、「中期経営計画2026」のテーマ「新価値創造 1Kプロジェクト」を掲げ、この実現のため、積極的に新規素材開発、研究員の採用強化をはじめとした研究開発投資、新商品及び主力商品への広告投資に注力いたしました。

これらの取り組みにより、当社グループの研究開発費は413百万円(前年同期比33.2%増)、広告宣伝費は22,835百万円(前年同期比46.2%増)となりました。

新商品の販売では、「DRcula(キュラ)」シリーズのうち、卵殻アパタイトを使用したホワイトニングジェルが当第2四半期連結累計期間において、好調に売上高の増加に貢献いたしました。

また、明治薬品(株)の機能性表示食品である「シボラナイトGOLD」及び累計出荷100万本超のヒットとなった「まつ毛デラックスWMOA」が堅調に推移いたしました。

海外販売では、「ニューモ育毛剤」及び「ニューモVactoryシャンプー」のECプラットフォーム及び代理店向けの販売が引続き堅調に推移し、売上高の増加に貢献いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は35,143百万円(前年同期比21.9%増)、営業損失883百万円(前年同期は2,032百万円の利益)、経常損失912百万円(前年同期は2,105百万円の利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失914百万円(前年同期は1,561百万円の利益)となりました。

前第2四半期連結会計期間から当第2四半期連結会計期間までの各四半期別の業績推移は以下のとおりです。

	前期			当期	
	前第2四半期 連結会計期間	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間
売上高(百万円)	16,215	15,228	16,135	17,030	18,113
営業損益(百万円)	457	△1,100	148	△2,194	1,310
経常損益(百万円)	487	△1,028	188	△2,180	1,268

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

<バイオメディカル事業>

①創薬事業

創薬事業では、「自己免疫疾患」及び「繊維症」等の難治性疾患を対象とした研究開発を行っております。

創薬事業の基盤となる「ALAgene technology」は、これまで治療できなかった病気に対する抗体及び既存医薬品よりも優れた薬効を持つ抗体を作製する当社独自のプラットフォーム技術です。

本技術を活用・高度化することで、当社は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の令和3年度「次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業(国際競争力のある次世代抗体医薬品製造技術開発)」における主要メンバーとして、あらゆる疾患を標的とした次世代抗体医薬品候補となり得るリード抗体の作成を進めております。

また、当社はAI専門チームを組成し、ターゲット探索から抗体の設計までのプロセスの短縮化に取り組んでおります。

「自己免疫疾患」においては、当社内の「国際PAD^{※1}研究センター」において、一連のPAD関連ターゲットに対する創薬研究を推進しております。

抗PAD4抗体については、2022年8月に米国特許庁から特許査定を受領いたしました（出願番号US15/555,808）。本特許査定により、日本（特許第6369922号並びに第6675739号）のみならず、バイオ医薬品の世界シェア50%を占める米国においても、「PAD4」を標的とする創薬プロジェクトの知的財産権が強化されることになりました。

「繊維症」等の各種難治性疾患においては、標的分子に対する抗体を取得・精製し、薬効薬理試験等の創薬研究を推進しております。

この他、大学や製薬企業との共同研究による新規創薬シーズの発掘に積極的に取り組んでおり、新たなパイプラインの拡充に向けて順調に進捗しております。

②研究支援事業

2022年4月に吸収分割により、タンパク質解析国内トップレベルの実績・技術力を誇る(株)アンテグラルのバイオサイエンス事業を承継し、プロテオーム解析等を中心とした受託サービスを行っております。

また、2022年6月には、プロテオーム解析のさらなる強化のため、微量なタンパク質の変化が解析可能な「Olink Target」受託サービスを、国内で初めて開始いたしました。

「Olink Target」サービスは、国内の研究機関、製薬企業等からの受注が順調に伸び、バイオメディカル事業における収益拡大に貢献しております。

以上の結果、バイオメディカル事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は138百万円（前年同期比880.0%増）、セグメント損失145百万円（前年同期は138百万円の損失）となりました。

<BtoB事業>

BtoB事業では、機能性素材、健康食品及び医薬品等の研究開発及び製造を行い、食品・医薬品メーカー、流通事業者等に販売をしております。当事業が属する機能性表示食品及び健康食品等ヘルスケア市場は、健康維持、増進への高い意識を背景に、市場規模が拡大しております。

機能性素材の販売では、当社の主力商品である「ファーマギャバ」の売上高は564百万円（前年同期比23.6%増）となりました。海外市場では、米国のアフターコロナの動きに呼応し、商品の採用が増えてきております。国内市場では、機能性表示食品制度における「GABA（ギャバ）」の届出件数は824件（2023年1月末時点）で、引続き第1位の採用実績を維持しております。食品メーカーによるGABAの採用拡大が継続しております。

骨形成成分である「ボーンペップ」の売上高は、海外乳業メーカー向けが大きく伸長し、123百万円（前年同期比24.8%増）となりました。

OEM事業の売上高は、496百万円（前年同期比58.7%増）となりました。国内を中心にヘルスケア企業向けダイエット食品、健康飲料は堅調に推移し、ドラッグストア向けをはじめとしたプライベートブランド育毛剤が売り上げに貢献いたしました。独自の素材を中心にエビデンスのある原料を組み合わせ提案しており、引続き国内外でOEMによる最終商品を販売するプロジェクトに注力してまいります。

当第2四半期連結累計期間より、当社ナショナルブランド第1弾の新商品「明晰（メイセキ）ラボ」の販売を開始いたしました。大手コンビニエンスストアでの取扱いが開始され、売上高は74百万円となりました。引続き、ナショナルブランド商品の拡大を図るプロジェクトに注力してまいります。

越境ECでは、中国TモールGlobal等のECプラットフォームや現地代理店向けの販売の増加及び広告効果により売上高は202百万円（前年同期比85.8%増）となりました。

明治薬品(株)が手がける医薬品製造受託の「CMO^{※2}事業」の売上高が1,996百万円（前年同期比19.4%増）となりました。後発医薬品メーカーの品質問題や製造上の不備による影響で代替需要が高まる中、利益率向上を目指し、受注価格への転嫁と受託品目の絞り込みを行ってまいりました。また、同社機能性食品・医薬品等のドラッグストアチャネル等での販売を行う「CHC^{※3}事業」の売上高は484百万円（前年同期比44.3%減）となりました。ドラッグストア向けに新規ブランド製品の展開を強化しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のBtoB事業の売上高は4,071百万円（前年同期比11.6%増）、セグメント利益は700百万円（前年同期比29.5%増）となりました。

<BtoC事業>

BtoC事業では、「発明企業の通販事業」として当社独自の機能性素材を配合したサプリメント及び医薬部外品（「タマゴ基地」ブランド）並びに化粧品（「フューチャーラボ」ブランド等）の商品を、通信販売の方式で消費者へ直接販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間についても、顧客獲得効率指標のCPO^{※4}及び収益性指標のLTV^{※5}を重視しながらも、新商品へ積極的に広告宣伝投資を行い、2023年1月末時点の当社グループ全体の定期顧客件数は、1,050,880件（前年同期834,139件）となりました。当第2四半期連結会計期間のセグメント損益は1,243百万円の黒字となり、広告投資の成果が着実に利益創出につながっております。

「ニューモ育毛剤」の売上高は、13,708百万円（前年同期比8.1%減）となり、定期顧客件数は478,894件（前

年同期520,958件)となりました。新規獲得及び定期継続率の水準が安定的にして推移しているため、当社グループ全体の売上及び利益に寄与いたしました。「ニューモ」関連商品では、「ニューモサプリ」の売上高は997百万円(前年同期比36.9%減)、「ニューモVactoryシャンプー」の売上高は353百万円(前年同期比9.2%減)となりました。なお、「ニューモ育毛剤」の累計出荷件数は、2022年12月24日時点で1,800万本を突破しており、引続き堅調な受注が継続しております。

「ニューモ」ブランドの水平展開の取り組みとして、引続きまつ毛美容液「まつ毛デラックスWMOA」の広告宣伝に取り組んだ結果、売上高は2,930百万円(前年同期比195.3%増)となりました。

明治薬品㈱の「シボラナイトGOLD」の定期顧客件数は、102,280件(前年同期10,247件)となりました。広告表現の一部見直しを行い、新規獲得ベースは鈍化したものの、継続率が当初想定より高い結果となり、売上高は4,230百万円となりました。

当期の新商品である「DRcula(キュラ)」シリーズは、WEBでの広告宣伝を積極化したことにより受注が増加し、ホワイトニングジェルの売上高は849百万円となりました。顧客獲得に関しても、ホワイトニングジェル及びマウスウォッシュ合計で定期顧客数が67,617件となりました。

既存商品では、膝関節サプリメント「タマゴサミン」の売上高は969百万円(前年同期比28.1%減)となりました。

化粧品の販売では「珠肌ランシエル」及び新商品である「ヘアポーテ ボタニカルカラークリームシャンプー」が好調に売上を上げております。CPOを重視した新規顧客獲得を行い、2023年1月末時点の化粧品全体の定期顧客件数は184,346件(前年同期126,155件)と新商品の影響で大きく増加する結果になりました。

以上の結果、BtoC事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は30,923百万円(前年同期比22.9%増)と大幅な増収となりました。定期顧客のさらなる獲得を目指し、広告宣伝費22,771百万円(前年同期は15,561百万円、前年同期比46.3%増)を計上し、セグメント損失は857百万円(前年同期は2,070百万円の利益)となりました。

※1 PAD (Peptidylarginine deiminase) : 標的タンパクのアルギニンをシトルリン化する酵素。生体内に5種類のPADが存在し、各種疾患との関連が報告されている。

※2 CMO (Contract Manufacturing Organization) : 医薬品製造受託機関

※3 CHC (Consumer Health Care) : ドラッグストアでの医薬品及び機能性食品等の販売

※4 CPO (Cost Per Order) : 顧客1件を獲得するために要した広告宣伝費

※5 LTV (Life Time Value) : 顧客生涯価値

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ2,715百万円増加し、33,875百万円(前期比8.7%増)となりました。これは主に、現金及び預金の増加4,130百万円、受取手形及び売掛金の減少943百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ4,038百万円増加し、28,122百万円(前期比16.8%増)となりました。これは主に、広告宣伝費の増加等による未払金の増加811百万円、シンジケート方式によるコミットメントライン契約に基づく借入実行による短期借入金の増加2,000百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,322百万円減少し、5,752百万円(前期比18.7%減)となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失による減少914百万円、配当金の支払による減少290百万円、自己株式の取得及び処分による減少205百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、自社ブランド商品の販売開始、広告の質・量の大胆な見直し等に取り組んでおり、これらの取り組みによる当社の連結業績への影響は、下半期から具現化してくることが見込まれます。2023年7月期の通期の連結業績予想につきましては、現在精査を行っており、2022年9月6日に発表しました業績予想値から大きな変更が生じる場合は、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,845	12,976
受取手形及び売掛金	6,702	5,758
電子記録債権	732	500
商品及び製品	4,704	4,561
仕掛品	478	602
原材料及び貯蔵品	884	770
その他	1,175	967
貸倒引当金	△9	△0
流動資産合計	23,513	26,136
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物 (純額)	2,549	2,473
機械装置及び運搬具 (純額)	457	418
工具、器具及び備品 (純額)	176	170
土地	1,193	1,193
リース資産 (純額)	31	26
建設仮勘定	50	90
有形固定資産合計	4,458	4,371
無形固定資産		
のれん	270	233
その他	34	31
無形固定資産合計	305	264
投資その他の資産		
投資有価証券	1,572	1,667
その他	1,309	1,435
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,881	3,102
固定資産合計	7,645	7,739
資産合計	31,159	33,875

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,176	1,167
短期借入金	15,400	17,400
1年内返済予定の長期借入金	760	811
未払金	4,077	4,889
未払法人税等	434	228
賞与引当金	70	73
その他	876	712
流動負債合計	22,795	25,283
固定負債		
長期借入金	697	2,227
退職給付に係る負債	427	475
その他	164	136
固定負債合計	1,288	2,839
負債合計	24,084	28,122
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,042	2,042
資本剰余金	1,820	1,821
利益剰余金	3,300	2,085
自己株式	△138	△343
株主資本合計	7,024	5,605
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46	145
その他の包括利益累計額合計	46	145
新株予約権	0	0
非支配株主持分	2	1
純資産合計	7,074	5,752
負債純資産合計	31,159	33,875

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)
売上高	28,821	35,143
売上原価	5,786	6,756
売上総利益	23,035	28,386
販売費及び一般管理費		
研究開発費	310	413
広告宣伝費	15,614	22,835
支払手数料	1,613	2,011
のれん償却額	21	36
その他	3,442	3,974
販売費及び一般管理費合計	21,002	29,270
営業利益又は営業損失 (△)	2,032	△883
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	11	12
為替差益	12	1
補助金収入	40	23
持分法による投資利益	6	—
業務受託料	8	8
その他	14	21
営業外収益合計	94	68
営業外費用		
支払利息	13	23
投資事業組合運用損	—	10
持分法による投資損失	—	38
支払手数料	8	7
商品回収等関連費用	—	14
その他	0	2
営業外費用合計	21	96
経常利益又は経常損失 (△)	2,105	△912
特別利益		
負ののれん発生益	82	—
特別利益合計	82	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	2,186	△912
法人税等	625	3
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	1,561	△915
非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	—	△1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	1,561	△914

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	1,561	△915
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△59	98
その他の包括利益合計	△59	98
四半期包括利益	1,502	△816
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,502	△815
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自2021年8月1日至2022年1月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年10月20日 定時株主総会	普通株式	581	20.00	2021年7月31日	2021年10月21日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には、記念配当5円が含まれております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年2月21日 取締役会	普通株式	290	10.00	2022年1月31日	2022年4月4日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自2022年8月1日至2023年1月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年10月20日 定時株主総会	普通株式	290	10.00	2022年7月31日	2022年10月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の
末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年2月20日 取締役会	普通株式	288	10.00	2023年1月31日	2023年4月4日	利益剰余金

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,647	25,159	14	28,821	—	28,821
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	3,647	25,159	14	28,821	—	28,821
セグメント利益又は損失(△)	541	2,070	△138	2,473	△440	2,032

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△440百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△419百万円及びのれん償却額△21百万円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカル 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	4,071	30,923	138	35,133	10	35,143	—	35,143
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	4,071	30,923	138	35,133	10	35,143	—	35,143
セグメント利益又は損失(△)	700	△857	△145	△301	△1	△303	△580	△883

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ファンド運営事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△580百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△544百万円及びのれん償却額△36百万円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年8月1日 至 2022年1月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカル 事業	計	
ファーマギャバ	456	—	—	456	456
ボーンペップ	98	—	—	98	98
ファーマバイオミックス	27	—	—	27	27
ランペップ	30	—	—	30	30
Cerepron	9	—	—	9	9
HGP	7	—	—	7	7
鶏卵抗体	5	—	—	5	5
その他素材	47	—	—	47	47
越境EC	108	—	—	108	108
OEM	312	—	—	312	312
CMO	1,672	—	—	1,672	1,672
CHC	869	—	—	869	869
ニューモ育毛剤	—	14,913	—	14,913	14,913
ニューモVactoryシャンプー	—	389	—	389	389
ニューモサプリ	—	1,580	—	1,580	1,580
タマゴサミン	—	1,348	—	1,348	1,348
ロートV5粒アクトビジョン	—	476	—	476	476
ヘアボーテ エクラ ボタニカル エアカラーフォーム	—	1,842	—	1,842	1,842
まつ毛デラックス WMOA	—	992	—	992	992
その他	—	3,616	—	3,616	3,616
バイオメディカル	—	—	14	14	14
顧客との契約から生じる収益	3,647	25,159	14	28,821	28,821
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,647	25,159	14	28,821	28,821

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他	合計
	BtoB 事業	BtoC 事業	バイオ メディカル 事業	計		
ファーマギャバ	564	—	—	564	—	564
ボーンペップ	123	—	—	123	—	123
ファーマバイオミックス	24	—	—	24	—	24
ランペップ	21	—	—	21	—	21
Cerepron	11	—	—	11	—	11
HGP	11	—	—	11	—	11
鶏卵抗体	3	—	—	3	—	3
その他素材	56	—	—	56	—	56
越境EC	202	—	—	202	—	202
OEM	496	—	—	496	—	496
NB	74	—	—	74	—	74
CMO	1,996	—	—	1,996	—	1,996
CHC	484	—	—	484	—	484
ニューモ育毛剤	—	13,708	—	13,708	—	13,708
ニューモVactoryシャンプー	—	353	—	353	—	353
ニューモサブリ	—	997	—	997	—	997
タマゴサミン	—	969	—	969	—	969
ロートV5粒アクトビジョン	—	380	—	380	—	380
ヘアボーテ エクラ ボタニカル エアカラーフォーム	—	721	—	721	—	721
まつ毛デラックス WMOA	—	2,930	—	2,930	—	2,930
シボラナイトGOLD	—	4,230	—	4,230	—	4,230
DRcula薬用ホワイトニング ジェル	—	849	—	849	—	849
その他	—	5,781	—	5,781	—	5,781
バイオメディカル	—	—	138	138	—	138
顧客との契約から生じる収益	4,071	30,923	138	35,133	—	35,133
その他の収益	—	—	—	—	10	10
外部顧客への売上高	4,071	30,923	138	35,133	10	35,143